

令和3年第3回北海道議会定例会 一般質問 **再々質問**

年月日 令和3年9月28日(火)

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 議員

質 問	答 弁
<p><b>一 ゼロカーボン北海道の実現と地域環境権などについて</b></p> <p>知事からも今、ご答弁いただきまして、今回各部と色々議論させていただきました。各部の中でやっぱりそのゼロカーボンの実現は、もちろん重要ではあるが、緊急ではない課題という、まだ位置付けなんだというふうに思います。もちろん今、知事もはじめ、コロナ禍の状況で大変だというふうに思いますが、緊急ではないけれども重要な課題にきちんと対応していかなければ結果として、その緊急で重要な課題となって、その対策に追われるという事態になっていくという経験を色々な意味で道庁組織でしてきたのではないのでしょうか。重要ではあるが緊急ではない課題を疎かにしているこの今の状況について、私自身は非常に道庁組織の在り方の問題としても非常に危惧をしているところです。知事ご自身はこのゼロカーボンの今のその各部の推進状況というのをご自身としてどのように感じていらっしゃるのか。そして、この道庁組織、ある意味でその色々な強みがあるわけですね今まで百年の計を計って条例でその森林を大事にすると決めてきたとか、もう中央政府に先立って、さっきの農薬の答弁では中央政府の法に基づいてやるという話でしたけど、クリーン農薬を進めた時にそれはその試験研究機関の長とそして知事がやる気をもってやってきたということですよ。誰も中央政府の指示で動いてないわけですよ。北方住宅にしても試験研究機関の人たち、現場の人たちが一生懸命頑張って積み上げてきたことですよ。そういう各部のその強みを活かしながらどうやってこのゼロカーボン実現のために知事がリーダーシップを発揮される考えなのか改めて伺いたいというふうに思います。</p> <p>先ほど、地域戦略についても少し議論をさせていただきましたが、例えば交通政策だとか吸収源の色々な議論をしたとしてもやっぱり地域それぞれ違うわけですよ。賦存量や森林面積や交通事業者の状況や自治体の状況も全然違うので、エリア毎の目標設定や推進管理が不可欠ではないかと考えるわけです。現在その本来であれば基礎自治体を中心になってやるのがもちろん最も素晴らしいというふうに思いますが、現在の地球温暖化推進法で定められているその地域計画を策定している自治体は30ほどしかありません。道内でも約30にとどまっているこの市町村自治体のその今の現状を補完する意味で、エリアを指定してエリア毎の道の地域戦略が重要であると考えますので、ここは指摘とさせていただきますので、しっかり議論していただきたいと思います。ただ地方本部作ったというところでは成り立たないというふうに思いますので、地域戦略に関しては指摘とさせていただきますので、しっかり道庁内部で議論をいただきたいというふうに思います。以上で再々質問を終わります。</p>	<p><b>(知事)</b></p> <p>広田議員の再々質問にお答えをいたします。ゼロカーボン北海道実現に向けた庁内体制などを踏まえた知事のその受け止めというご質問でございます。道ではですね、骨太の方針に国においてゼロカーボン北海道が位置づけられ、先月、その体制推進に当たってゼロカーボン推進監並びに推進局を設置するとともに、全庁一体となってその取組を推進する体制を整備したところであります。ご質問にもございましたけれども、当然各部連携をして取組を進めていかなければならない重要な政策であります。そういった推進組織を体制として整える中で全庁一体となってこのゼロカーボン北海道実現のために取組を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>